



自分の考えを深めよう

みなさんは、新聞を読んだり、ニュースを見たりしていますか？先日、小論文講習会に参加する機会がありました。小論文は、大学進学者のみに必要だと考えている人も多くいると思います。しかし、それは大間違いです。社会人になった後でも、小論文や文章を書かなければならない機会は多くあります。つまり、小論文は大学進学者に限らず誰もが一生付き合っていかなければならないものなのです。嫌だと叫んでも逃げられません。今回は、小論文を書くための基礎について書きたいと思います。

小論文を書くためには、大前提として「知識」が必要です。知識が無い状態では、いくら頑張っても良い小論文は書けません。では、どうすれば良いのか。それは、冒頭にも書いた通り、新聞を読んだりニュースを見たり本を読んだりすることです。しかも、ただ読むだけではいけません。それらの内容に対して、自分はどうか考えるのか、その理由は何か、など自分なりの考えを持ちながら読むことが非常に大切です。これが、小論文につながっていきます。小論文は、質問に対して自分の考えを根拠を示しながら書く文章です。考える習慣が無い人には書けません。

図書室には、朝日新聞、毎日新聞、福島民友、福島民報の4紙が配架されています。また、検索用のパソコンもあります。同じニュースでも、それぞれのメディアでどのように報道されているのか、比べてみるのもかなり力になります。将来の自分のためにも、図書室に足を運び、様々な新聞や本を手にとって、考える習慣をつけてください。

新着図書

- 『世界一おもしろい国旗の本』 ロバート・G・フレッソン
- 『トランスジェンダーの私がボクサーになるまで』
トーマス・ページ・マクビー
- 『三国志演義事典』 渡邊義浩
- 『エヴァンゲリオン×ことば選び事典全5巻BOXセット』
学研事典編集部
- 『性格類語辞典ポジティブ編』 アンジェラアッカーマン
- 『性格類語辞典ネガティブ編』 アンジェラアッカーマン
- 『続 わけあって絶滅しました。 世界一おもしろい絶滅したいきもの図鑑』 丸山貴史
- 『言い訳 関東芸人はなぜM-1で勝てないのか』 埴 宣之
- 『キレル！脳科学から見た「メカニズム」「対処法」「活用術』 中野信子

図書室からのお願い

図書室入り口にも掲示されている通り、放課後の図書室の利用の仕方が悪かったため、放課後の図書室の利用を制限しています。学校の図書室に限らず、町の振興センターや駅といった、公共の施設の利用について、もう一度考え直してください。社会の常識から考えて、ルールやマナーに反する行動をしていませんか？皆さんの一人一人の心がけが大切です。大人になる前に、「世間の目」というものを考えた行動ができるようになりましょう。